

平成28年度
四倉中学校

学校だより

3月9日(木) 第42号

文責 校長 中根 猛

入試を乗り越えてその先へ

3月6日に県立高校Ⅱ期選抜に備えて事前指導会を開催しました。受験上の注意や当日、朝の集合確認を担当する教員との打合せを行いました。その中で、私から激励の意味を込めて人にはすごい能力があるという以下のエピソードを紹介しました。旋盤工であり小説家としても活躍されている小関智弘さんが書かれた「職人学」の一節です。見習い工のときに先輩の職人から素人でも百分の一ミリの違いを感じ取れる能力があると諭された話です。

「お前に、百分の一ミリというのがどんなものかを教えてやろう」

職人が削っていたのは、米軍の戦車の部品だった。1951年、朝鮮戦争のさなかだった。凶面を見れば、百分の一ミリ単位の精度に削ることが要求されている。

「お前の髪の毛と、俺の髪の毛を一本ずつ抜いて、親指と人差し指で挟んで、軽くねじってみろ。どっちが太いと思う」

と言う。わたしは言われたとおりに職人の髪の毛を一本抜いて、わたしのと比較した。わたしの毛のほうが太いと思った。するとそれを、マイクロメーターという、百分の一ミリを測定することのできる測定器で測ってみろ、と言う。

測定の結果、わたしの毛が百分の八ミリで職人の毛は百分の七ミリだった。

「素人のお前でも、ちゃんと百分の一ミリがわかったろう。百分の一ミリなんて、そんなものだ」

わたしはそれで、いっぺんに百分の一ミリというものが、神秘的な世界ではないことが理解できた。同時に、それを教えられるまで、不器用なわたしに旋盤職人なんてなれないのではないか、という不安もやわらいで、鉄を削る仕事がとても身近なものに思えるようになった。

人間の能力は、すごい。自分の可能性を信じて最善の努力をして悔いない人生を生き抜いて欲しいと励ました。

県立Ⅱ期入試が終わりました

県立高校のⅡ期選抜入試が終わりました。本校からは59名が無事に受験を終えることができました。今年の入試問題の出題基本方針については次のように新聞報道されていました。

各教科とも基本的な事項を選び、日頃の学習の成果が把握できるように配慮した。生徒の学力を多面的に評価しながら、特に知識や理解の程度、思考力、判断力、表現力を確認できるように問題内容と形式などに配慮して出題した。

各教科とも学習した内容が偏りなく出題されたり、読解力、思考力、表現力を総合的に問う問題が出題されたりしました。特に数学の大問4は、問題文自体が長文であり何が問われているのか正確に読み取る読解力が必要な問題でした。基礎基本をしっかり身に付けてそれらを元に考え表現する力が必要です。それらの力は、授業で級友と意見を交わしながら学び合うことで身に付けることができます。日々の授業を大切にして家庭学習では、学んだことを自分のものにするために復習したり、より速く解けるように繰り返し問題演習したりすることが大切だと感じました。

第67回卒業証書授与式～3月13日～

3月13日(月)第67回卒業証書授与式を開催します。本年度の卒業生は、男子49名、女子53名の計102名です。式は、8時55分に卒業生が入場し9時より式が開始されます。卒業証書授与の様子は、ステージ上のVTRカメラで撮影しフロアに設置された2台のスクリーンに映し出します。閉式の目安は、10時50分頃です。その後、各学級に戻り最後の学級活動を行います。11時30分から東昇降口から北門までの間で卒業生を見送る予定です。

なお、本年度の卒業生を含めて四倉中学校の同窓生は、17032名になりました。